TOPICS

農業体験事業を実施しました！

@北青少年活動センター

「自然」がテーマの北青少年活動センターで、今年度から新たな事業が始動しました。その名も、『若者農業体験隊 米 come CLUB』――なんだか「ド素人の私でもイケそうちゃう!?」と希望の光を与えてくれるような、素敵なネーミングだと思いませんか？　そうです。このプログラムは、農業経験ゼロだけどちょっと興味はある……というみなさんに気軽に参加してもらえるものとして、地元の方々にご協力いただきながら実施しました。

このページでは、9月までの約半年間の『米come CLUB』の様子をご紹介します。

自然豊かな京都大原でもち米作り

この事業のメインは、京都市左京区の大原にある田んぼでのもち米作りです。8月を除く5月から9月のあいだ、月1回のペースを基本として、農業に興味がある若者や自然に触れリフレッシュしたい若者たちとともに、農作業に取り組んできました。

毎回の実施にあたっては、株式会社大原アグリビジネス21代表取締役で、農業もしておられる山本壽典さんにご指導・ご協力いただきました。

5月 田植え

センター休館期間中からのスタート。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、この日はユースワーカーだけで田植えを実施しました。ワーカーも、ほとんどが田植え初体験！　ムニュっとした田んぼの土独特の感触を味わいながら、1つ1つ大事に植えていきました。

6月 草引き

ここからは活動に応募してくれたみんなも参加！

小さかった田んぼの苗が、1か月で膝の高さにまで成長しました。苗と苗の間に生えた雑草を、腰をかがめながら抜いていく作業は、思った以上に大変。頑張ったあとは、シソを始めとする大原の食材を使った美味しいお弁当でおなかを満たしました。

7月 肥料撒き

本格的な夏になって更に青々と成長した稲に、みんなで肥料をやりました。手動の肥料撒きの道具を担いで、稲の間を縫うように進んでいきました。肥料撒きのハンドルを回しながら慣れない田んぼの中を歩くのは、至難の業。バランスを崩してこけてしまわないように、ゆっくりゆっくり慎重に行いました。

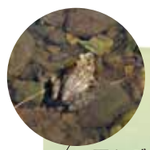
9月20日 稲刈り

肥料撒きから2か月が経ち、いよいよ収穫だ！　と思った矢先、山本さんから「稲がウンカ（農業害虫）にやられている」との知らせが。そこで急遽、予定より1週間早めての実施としました。思わぬアクシデントでしたが、自然を相手に活動すると、こういうこともあるのだなあ……と勉強になりました。

ウンカイメージ
Brett Hondowによる
Pixabayからの画像

9月27日 収穫祭

待ちに待った収穫祭！　収穫したもち米で作ったお餅を、あんこ、きな粉、しょうゆ、納豆など、思い思いのトッピングでいただきました。つきたてホヤホヤのお餅は、美味しいのはもちろんのこと、ツヤツヤしてとってもキレイでした！



参加者アンケートより

- 米農家に必要な費用等、山本さんのお話が、特に印象に残った
- 田んぼが思ったより深くてぬるかった
- 様々な動物や植物と一緒に生きていることを発見した
- 草木染も初めての経験だった
- 冷たい川で遊ぶ時間もあって、最後まで楽しく活動できた

参加したみんなにとって、「ちょっとやってみたい」の気軽さで、農業に触れ、大原の暮らしに触れ、豊かな自然に触れられる、貴重な時間になりました！